



JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1

東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階

電話 03-5315-0941

発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子

毎月1回20日発行／一部20円

（組合員の購読料は、組合費に含む）

2025年12月20日

第782号



JR東労組ホームページは

←こちらからアクセス

<http://www.jreu.or.jp/>

第44回定期大会以降の拡大
(2025.6.12～)



25名

JR東労組で共に頑張っていきたい！

全地本代表者会議

東日本旅客鉄道労働組合



全地本代表者会議



12月6日、浦和コロシアムにて「全地本代表者会議」を開催し、第44回定期大会以降のたたかひの総括を行いました。主催者あいさつで加藤中央執行委員長からは、年末手当のたたかひで3・0ヶ月＋0・1ヶ月という回答を聞いてどう感じたのかを相互議論することの大切さや、職場に踏まえた運動を仲間と共に構想することで組織強化・拡大につなげていくこと、不当労働行為やハラスメントを許さず、大宮地本をはじめ最先頭でたたかう仲間と固く連帯することの重要性などを訴えました。

業務課題、組織課題、当面する課題について本部から提起した後、全体討論は23名の発言によって議論を深めました。たたかひの成果と課題、苦労や悩みが語られ、それぞれの実践と、教訓を共有することができました。

年末手当のたたかひで一体感をつくり出すことができたこと、たたかひの最中に11名の組織拡大を実現したことの結果を確認しました。そして、連帯を深めて裁判闘争の勝利と組織強化・拡大を勝ちとっていくこと、命と安全を第一とする職場と、安心してJR東労組に加入できる健全な会社をつくり出していくことを確認しました。

発言の主な内容

【年末手当のたたかひ】「出さない理由ばかり述べる会社。騙されることなくたたかひ抜くことを議論し、常駐体制でも議論をつくり出してきた／掲示板を活用して短冊行動を実践し、職場からのたたかひをつくれたいことは自信につながった／人材流出をくい止め人材を確保するために、いかに組合員の声を訴えるかというたたかひをつくってきた」

【安全・施策】「安全第二」が単なるスローガンになっていることに危機感を持つ。運行優先に立ち向かわなければ安全にはならない／臨時列車を土日以外にも運行させ50％の働き度をすでにさせられている／横浜駅での気笛吹鳴の事象について、原因究明委員会を開催するなど横浜支部や大船支部と連携してたたかひをつくり、地本申し入れに高めてきた／草木が生い茂って見えない箇所があったことについて「面

倒でも処置依頼書を書こう」と職場のテーブルにメッセージを置いたところすぐに撤去された。本人の発意に基づく行動なのに組合が関与しているように決めつける姿勢に怒り

【過半数代表選・組織強化・拡大】過半数代表選に立候補した。決意表明の内容が労働者の立場だったからという理由で応援してくれた／分会大会への結果にこだわり組合員に向き合い運動をつくり出してきた。遠距離通勤者や育児中の組合員が参加しやすいように、時間帯や子ども連れ参加OKなど工夫した分会もあった／時間をかけて関係を築き、会社への不安や不満、悩みや愚痴を聞くこと、組合の存在意義を感じてもらい組織拡大を実現することができた

【ハラスメント・不当労働行為】賃金控除依頼書を会社に提出する時に、不当労働行為を受けた仲間がいる／バス関東でも管理者によるパワハラで組合員が休職に追い込まれている。最後まで本人に寄り添ってたたかいていく



労使議論の内容を覆すような姿勢、施策実施ありきで一方的に進める経営姿勢は許さない！

12月17日、申10号「企業型確定拠出年金の導入」を実施ありきで労使議論を蔑ろにして一方的に進めてくる経営姿勢をただす緊急申し入れを提出！

申5号「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する申し入れ（その2）について、労使でスケジュールを調整しながら精力的に団体交渉を行ってきています。

その様な中、会社として企業型確定拠出年金の導入の準備を進めていかなければならないということから、申5号の一部である【確定拠出年金の導入】について項目の順番を変えて団体交渉を行い、【確定拠出年金の導入】に特化した労使の合意文書を締結して進めていくことを労使で一致してきました。しかし、会社から「伝え漏れた」との理由で前段の労使議論が覆され、予定していた団体交渉の席に着くことができませんでした。

よって、申10号を提出し、議論を行わざるを得なくなりました。（詳細については業務速報No.91、92をご参照ください）

今施策において、今回以外にも団体交渉の席に着くことができなかったことが繰り返し発生しています。労使双方で調整して設定した団体交渉が開催できず、労使議論の時間が減らされていることを会社は認識すべきであり、対策を講じることを強く訴えました。

会社からは、担当者双方のコミュニケーションの課題に切り縮めることなく、確認したことが覆されたと認識する事態になったことについて課題であること、繰り返されていることは認識すること、組合からの指摘を受け止めることが述べられました。

そして、労使間の取扱いに関する協約を踏まえて誠実に対応していくことになり、一方的に進めることなく労使双方でやりとりをした上で進めていくことを確認し、企業型確定拠出年金の導入についての議論を行いました。

【確定拠出年金の導入】についての議論は申10号として行いましたが、申5号の議論は引き続き、たたかひのスローガンのもと臨んでいきます！

以前、信号担当社員は、異常時があった場合にすぐ対応するために、職場で食事作りをしていた▼使える予算は一人300～400円。5人分作っていたので、最大で2000円以内に収めないとならなかった、安いスーパーを探し、当時はよく利用していた▼久しぶりに訪れて、商品の値段を見て驚いた。当時と同じメニューを作ろうと思うと5人分で2800円ほどかかる計算で、一人当たり500円以上になる。物価高を改めて実感した▼近所のスーパーでも閉店間際だと値引きのシールが貼られている惣菜や弁当などに人だかりができていた。もっと言えば、その時間帯を狙って買い物している人もいるのだと思う。その姿を見て、賃金の上昇率は以前に比べれば高いが、物価の上昇率が賃金の上昇率よりも高い状態であり、実質賃金が上がっていない証左だ▼新年になれば、春闘が始まる。春闘で物価上昇率以上の賃金の上昇率でなければ、より貧しくなる人が増える。2026JR総連春闘では物価上昇率以上のベアを勝ち取るためにたたかいていく。

(Y・H)